

吐瀉の粒子

深水遊脚

松の木の吐瀉の薫は  
昔日の落武者か昨日の酔っ払いか

法律と噂話で塞がれた言葉こぼれる針山の上

光のない部屋を満たした粘い黒あなたと吸い込み汚しあう夜

芯が熱く眼を焼いた夜手に触れる粘液だけで貴方だと識る

区切りなく欲するままに詰め込んだ袋破れる寸前の鼓動